

忍野八海

山田真砂年

残雪の富士をどすんと忍野かな

熔岩踏んで川のほとりへ露の臺
せせらぎに囲はれし家や露の臺

クロツカス富士の地熱を噴きにけり

オブラートの溶けだすやうに春の雨

春耕や煙の中を人動く

亀鳴くや人工衛星混み合へり

紫木蓮ざんざの雨に温みあり

鳥語しきり底そこなしいけ抜池の底に鱒

虹鱒の己の影の上泳ぐ

花万朶富士ある方はけぶりをり

杳杳とうねる小余綾こよろぎ緑立つ

阿夫利嶺に雨雲のあり蕨餅

花万朶翁の語る昔かな

初桜免許返納決めにけり

建ち並ぶ屋台や七日目の桜

花万朶時間が来れば飯を食ひ

満開の花やお尻のもぞもぞす

目覚むれば天日眩し梨の花

菜種梅雨降りもなく列車発つ

賽の目の奇数の続く菜種梅雨

屈む児に鳩の寄りくる牡丹の芽

ぼうたんの朝の光にほどけ初む

銀杏若葉くよくよしても始まらぬ

ぼうたんや怠惰な時を昼下がり